



日本形成外科手術手技学会 *News Letter*

第 21 号 2026 年 5 月 1 日発行
発行 日本形成外科手術手技学会 事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12
新宿ラムダックスビル 榊春恒社内
MAIL : jsitps@shunkosha.com

理事長からのご挨拶

— 動画を中心とした魅力溢れる学会へ —

日本形成外科手術手技学会 理事長 三川信之
(千葉大学大学院医学研究院 形成外科学)

この度、日本形成外科手術手技学会の理事長を拝命いたしました千葉大学形成外科の三川信之です。本学会は 1996 年に発足した「形成外科内視鏡手術研究会」から幾度かの名称変更を経て、2011 年に学会に昇格、「日本形成外科手術手技学会」と改名されました。30 年以上の歴史と伝統を持つ本学会の理事長という大役に、身の引き締まる思いでございます。

形成外科にとって手術手技はその根幹であり、本学会は形成外科領域における手術手技の向上と知識の共有を目的として発展してまいりました。一方、最近は YouTube に代表される動画コンテンツが身の回りに溢れ、手技の習得は教科書を読む時代から動画教材を視聴して学ぶ時代に移行しつつあります。近年、本学術集会においても動画中心の発表としており、視覚に訴える実践的な情報提供は、若い形成外科医に大いに役立つものと考えます。また、本学会は日本形成外科学会の動画コンテンツ部門と連携することで、スペシャリストの実際の手術手技を繰り返し学べるという大きな利点があります。

形成外科の高度化・専門化が進む中、本学会が果たすべき役割はますます重要になるでしょう。各個人の手術手技の向上は患者様の成績向上に直結いたします。将来を担う若い先生達が積極的に参加し、楽しみながら形成外科的手技を学んでいただける魅力ある学会を作るべく、理事長として懸命に努力する所存です。皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 31 回 日本形成外科手術手技学会 報告

会長 元村 尚嗣（大阪公立大学医学部附属病院 形成外科）

2026 年 3 月 7 日、第 31 回日本形成外科手術手技学会を大阪ミナミのなんばスカイオコンベンションホールにて開催いたしました。本学会には、有料参加者 363 名、招待者数 49 名、研修医 7 名、大学生（留学生含む）4 名の計 423 名にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。

本学会のテーマは「情熱と愛を持って形成外科手術を極める」とし、形成外科医が技術とともに持つべき姿勢や精神性にも焦点を当てました。特に本学会の特徴である動画中心のプログラム構成は、若手医師をはじめ多くの参加者の関心を集め、実践的かつ視覚的に学べる学会となったと自負しております。

特別講演①では、近畿大学皮膚科教授の大塚先生より「形成外科医に必要な生成 AI の使い方」と題したご講演をいただき、日常診療や研究における生成 AI の可能性と実装について示唆に富む内容が共有されました。また、特別講演②では、形成外科界のレジェンドであり私の師でもある富士森良輔先生による「眼部の再建」において、長年の経験に裏打ちされた深い知見と技術の粋が披露され、立ち見ができるほどの多くの参加者に強い感銘を与えました。

さらに特別シンポジウム「クマ外傷パンデミック」では、近年注目される外傷テーマについて多角的な議論が行われ、臨床現場に直結する活発な意見交換がなされました。加えて、本学会の特色である 1 分動画、3 分動画セッションでは、簡潔でありながら要点を押さえた発表が続き、発表者の工夫と熱意が伝わる非常に密度の高いセッションとなりました。そのほか、多数のビデオシンポジウムや魅力ある一般演題を含め、総演題数は 148 題となり、形成外科手術手技に関する最新の知見と技術が幅広く共有されました。

日本形成外科学会との共同企画であるアワードセッション、1 分動画、3 分動画①②における最優秀賞の受賞者はそれぞれ、

- ・アワードセッション：細見謙登（三重大学）；マイクロを用いた正常組織を温存する低侵襲な癒痕拘縮解除術：先天性水疱症における手指分離の新たな戦略
- ・1 分動画：土屋皓大（聖隷三方原病院）；植皮片を金魚のようにすくいあげる～金魚すくい法の提案～
- ・3 分動画①：片山陸（静岡がんセンター）；肝動脈再建の術野を再現可能なトレーニングモデル
- ・3 分動画②：古川雅英（大分岡病院）；当院における下顎枝矢状分割術（Sagittal Splitting Ramus Osteotomy）

の先生方となりました。受賞された皆様、おめでとうございます。

会場となった大阪ミナミの活気ある雰囲気も相まって、情熱と愛に溢れた発表と質疑応答も活発で、参加者同士の交流も深まり、学術的にも人的にも実り多い機会となったと感じております。

本学会が、形成外科医一人ひとりの技術向上のみならず、情熱と愛を持って医療に向き合う姿勢を再確認する場となっていれば幸いです。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

第 32 回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

会長 加藤 久和 (岐阜大学医学部附属病院 形成外科)

第 32 回本学会の会長を拝命いたしました岐阜大学の加藤久和でございます。このたびは、私どものような新設で小規模な医局に本会の開催をお任せいただきましたこと、心より御礼申し上げます。開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本学会のテーマは「テクニシャンたれ！」といたしました。形成外科手術は、美と機能の両立が求められる高度な専門分野であり、卓越した技術が不可欠です。私たちは技術者としての誇りを胸に、先人より受け継いだ手技を大切にしつつ、ロボット支援手術やデジタル画像解析、3D モデリングなどの最新テクノロジーも積極的に取り入れ、より優れた「テクニシャン」であり続けたい—そのような思いを本テーマに込めております。

会期は 2027 年 3 月 6 日、会場は長良川国際会議場を予定しております。本会場は長良川のほとりに位置し、対岸には織田信長公が天下布武を掲げた岐阜城を望むことができます。また、周辺には川原町の古い町並みや長良川うかいミュージアムなどがあり、美しい景観とともに歴史情緒もお楽しみいただけます。岐阜は地方都市という印象をお持ちの方もいらっしゃるかと存じますが、名古屋から JR で約 20 分と交通の便にも恵まれております。さらに、白川郷や高山、日本三名泉の一つである下呂温泉といった全国的に著名な観光地へも 2 時間程度でアクセス可能です。ぜひご滞在を延ばして、岐阜の魅力をご堪能いただければ幸いに存じます。

本学会は 1995 年、形成外科内視鏡手術研究会として発足し、手術手技の向上を目的に発展してまいりました。まさに「テクニック」を語り合う学会であります。近年ではビデオ演題の充実にも力を入れており、従来の写真や論文では伝えきれない卓越した手技を、大画面で共有できるようになりました。今回の学会においてもビデオ演題を重視し、諸先生方が日常診療で培われた美しい技術を、ぜひ動画を通してご発表いただきたいと思います。

特別講演といたしまして、元中日ドラゴンズ監督であり、卓越した打撃技術を誇る“テクニシャン”として知られる落合博満氏をお招きし、ご講演を賜る予定でございます。また、昨今話題となっております「直美」に関しましては、厚生労働省よりご担当者をお迎えし、現状や課題、今後の対策についてご講演いただく予定です。

さらに本学会の新たな試みとして、同一会場にて日本喉頭科学会および気管食道学会専門医大会を同時開催する予定です。形成外科と重なる領域も多く、相互に刺激し合いながら学びを深めることで、より実りある共同企画を実現したいと考えております。

本学会が、参加される皆様にとって実り多く有意義な場となりますよう、鋭意準備を進めてまいります。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。